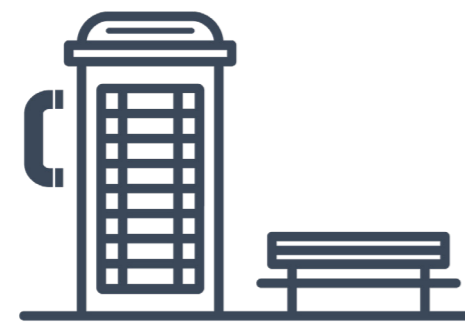


Telephone Booth for Storytellers



電話ボックスで
思い出を吹き込む

Talk one's Personal Memory
in the Telephone Box



声質を加工
Voice Conversion



音声データを
思い出の場所と紐付け

Link Audio Data to the Place of
Personal Memory



思い出を現地で再生

Listen to the Memory
at the Corresponding Place

都市再開発においては、その都市の住民の多様な価値観を行政が汲み取ることが重要である。しかし、市民の興味を惹きつけるような形でこれを行うことは難しい。そこで本提案では、使われなくなった電話ボックスを人目に付きやすいデザインへと改装し、中に設置した電話型デバイスで都市に関する市民の思い出を音声として収集する。これにより、行政は場所ごとにちなんだ住民の思いを通してその価値観を把握できる。さらに、集められた音声を場所データと紐づけてスマートフォンアプリとして配信する。このアプリを用いることにより、住民のみならず観光客も都市における埋れた思い出を追体験できる。また、都市の住人は自らの都市のイメージを対抗的に共創することができる。In urban renewal, it is crucial for the local government to draw citizens' opinions. However, collecting opinions in an attracting way is difficult. In

this proposal, we propose to equip a telephone-like device inside a modified out-of-use public telephone box to collect people's personal memories about the city. This playful conversion of telephone boxes will attract more citizens to participate and to share their memories, which in turn enables the local government to understand citizens' intricate thoughts about the city. Furthermore, we will distribute their narratives of the memories linked to the corresponding places as a smartphone app. By using this app, both citizens and tourists can enjoy the alternative viewpoints of the city which are often covert at first glance, while walking in the city. This may eventually lead to the creation of a subversive image of the city by the hands of the citizens themselves.

BACKGROUND

都市再開発においては、地域住民が共有する価値観や地域のイメージを把握した上で計画を進めることが重要である。しかし、市民と行政が対話を直接行うための制度（例：タウンミーティング）は、市民の政治的自己効力感の低さや参加の時間の確保の難しさなどの理由により、多くの市民を惹きつけるには至っていない[4]。オンラインでのサーベイなどインターネットを活用した意見収集によって対話のハードルは下がったものの、デジタル機器の扱いに不慣れた高齢者には難易度が高い・政治に関心のない市民にとって魅力的な手段となっていない、などの問題がある。

そこで、私たちは以下の理由で都市についての住民の思い出に着目した。まず、都市計画そのものに対して強い意見を持っていない人でも、都市に関する自身の思い出を語ることは容易である。また、様々な人々が語る記憶が交わることによって、一言で表すことのできない複雑な都市の実情を紐解くことができる[1]。さらに、人々が物語る思い出は単なる事実や意見よりも時に力強く政策に影響を与えるため、個人の記憶のストーリーテリングはアクティビズムの一手法として広く用いられている[5]。つまり、私たちは市民が都市について語る多様な記憶の集合——「昔この公園でよく遊んだ」といった些細なものから、「この交差点で昔目撃した事故の光景が今でも脳裏に焼き付いている」といった深刻なものまで——に、都市を作り変えるポテンシャルを見ている。

今回私たちは、再開発計画が進んでいる・またはこれから再開発計画が行われる予定の都市に居住

している市民の個人的な思い出を場所データと紐付けて収集し、スマートフォンアプリを通じて配信することを提案する。目的は大きく分けて「1.都市についての地域住民の個人的な語りを効果的に引き出し収集することで、再開発計画に地域の複雑な価値観・イメージを反映すること」「2.スマートフォンアプリによって人々の個人的な語りを住民から観光客にまで広く配信することで、都市のイメージを市民が対抗的に作り変えること」の二つである。

PROPOSAL

本プラットフォームは、住民の思い出を収集するための公衆電話型デバイスと、収集した思い出を配信するためのスマートフォンアプリに大別される。

住民の思い出の収集は、都市の中で使われなくなりつつある公衆電話ボックスに手を加えることで行う。歩行者の目に付きやすいように電話ボックスの外装を変え（例：塗装を変える）、中に改造した公衆電話を配置する。公衆電話の脇には、その電話ボックスの周辺地域の地図と地図上のそれぞれの部位に対応した架空の電話番号が書かれた電話帳が置かれている。電話ボックスの中に入ったユーザは、電話の自動音声によって、再開発により変わりつつある街の昔の姿を残すためにこの地域にまつわる思い出を電話に吹き込むよう促される。そして、個人的な思い出にちなんだ場所の番号を電話帳から探しダイヤルすることで、設定された自動音声に従って個人の思い出を公衆電話に吹き込むことができる。今回、公衆電話を改造するというデザインに至った理由は複数ある。まず、外装を変えた公衆電話は人々の目を引きやすく、また公衆電話という物理インタ

ーフェースを用いた意見収集によってより楽しい参加を促すことができる[3]。また、電話ボックスという閉鎖環境内においては、個人の思い出を語るということもすれば恥ずかしい行為も行いやすい。さらに、公衆電話の使い方はスマートフォンと比較すれば容易であり、高齢者でも苦なく行うことができる。

公衆電話によって収集した住民の思い出は、声質を加工した上でテープのノイズを加えることで、個人が特定されにくい音声データに変換する。その上で、思い出の音声データとその思い出にまつわる位置情報を紐付けた形で、思い出を聞くためのスマートフォンアプリとして配信する。スマートフォンアプリでは、地図上に登録された音声データの位置が表示されており、その近くに足を運ぶことで初めてその音声を聞くことができる。このアプリを使えば、町歩きを行いながらその土地に埋もれた個人の記憶を掘り起こすという、今までになかった都市の楽しみ方が可能となる。

EFFECT

本提案は、電話ボックスを改造するという遊び心のある手法を取り、また集める対象を住民の思い出にフォーカスした。これにより、それまで再開発計画に関心のなかった層にも働きかけることができるため、今までになかった形で地域にまつわる住民の意見を集めることができる。行政はここで集められた場所情報と思い出のデータを参照することで、住民が地域に対して抱いている複雑なイメージを紐解くことができ、住民と真に協働するプレイスメイキングの実現に一步近づけるだろう[1]。

また、ここで集められたデータをアプリを通して一般に配信することで、観光客はただ見て歩くだけでは把握できない街の複層的な姿を文字通り聞いて回ることができる。これはやがては、国の政策やメディアの報道などの権力関係によってかき消されていた、都市の住人自らによる対抗的な都市イメージの作り変えへと繋がるだろう[2]。



▲アプリの使用イメージ図

REFERENCES

[1]Crivellaro, C., Taylor, A., Vlachokyriakos, V., Comber, R., Nissen, B., & Wright, P. (2016, May). Re-Making Places: HCI, Community Building and Change. In *Proc of CHI 2016* (pp. 2958-2969). ACM. [2]Fariás, I. (2011). The politics of urban assemblages. *City*, 15(3-4), 365-374. [3]Gallacher, S., Golsteyn, C., Wall, L., Koeman, L., Andberg, S., Capra, L., & Rogers, Y. (2015, September). Getting quizzical about physical: observing experiences with a tangible questionnaire. In *Proc of UbiComp 2015* (pp. 263-273). ACM. [4]Jenkins, H. (2006). *Convergence culture: Where old and new media collide*. NYU press. [5]Vromen, A. (2017). Social Media Use for Political Engagement. In *Digital Citizenship and Political Engagement*. Palgrave Macmillan UK, London, 51-75.